



# 鳥見の記 散策の発見

第12回 赴くままに

2019.10



(上)戸隠連峰を背にする戸隠キャンプ場  
(中)戸隠連峰が映る早朝の鏡池  
(下左)戸隠森林植物園内の小鳥の道で遭遇した熊  
(下右)同アカハラ

ようやく蒸し暑さのストレスが和らぎ、木々の葉が色づき枯れ落ち始めたこの頃の早朝には、みずき野第1調整池で、今年生まれた子供(?)づれのカモ家族を見かけるようになります。

秋の訪れは、日本列島の広範囲に被害をもたらした大型台風と共にやってきて、スマホのアラーム音—みずき野の「避難勧告」—に驚かされ眠れぬ夜となりました。突然のアラーム音は、住めば都のみずき野で、災害への関心が薄れて安心ボケの暮らしに慣れきった己を覚醒させました。千葉の災害を思い起して、避難準備の「警戒レベル3」に従い、リュックに災害グッズを詰め込み、守谷のハザードマップを見直して寢床に着いた次第です。

## 思わぬ出会いもあった戸隠キャンプ

この夏、避暑を兼ねてアウトドアの醍醐味を味わいながらバードウォッチングをしようと、戸隠でキャンプをしました。キャンプ場は、標高 1200 メートルに位置する妙高戸隠連山国立公園内にあります。四季折々の野鳥の鳴き声を録音しバードウォッチングの楽しみ方を広め、野鳥観察のメッカとしてNHKが紹介したことで一躍有名になったところでした。

キャンプ場では、朝靄<sup>あさもや</sup>たなびく静寂な森林から聞こえるカッコウの鳴き声で夜が明けて、陽が昇る寸前に山峰の空が赤く染まり始める頃には、シジュウカラ・カケス・ホトギス・ウグイスやコゲラ等々の競うような鳴き声が聞こえてきます。その鳴き声は、まるで「早く顔を洗って朝餉<sup>あさげ</sup>を済ませて私たちを探しにおいでよ！」と誘っているようです。早々に身支度し、鏡池から戸隠森林植物園へと向かいました。



朽ちた老木に「カワウ」(鏡池)

鏡池は「逆さ戸隠」の池で知られ、早朝(5:30 頃)にもかかわらず、既に3人のカメラマンがベストポジションに陣取って撮影していました。一通り散策、撮影し本来の探鳥目的地へ移動すると...

森林植物園の入り口に『熊出没 注意!』の看板があることに気づかず、入り口で右廻りしようか、左廻りしようかと思案していると、先に入園し戻ってくる人の「くまだあ〜」の叫び声が右方向から聞こえてきたのです。右前方 20 メートル位の林縁の所に小ぶりの熊が悠然と朝餌を探しているではありませんか! シャッターを絞り優先に切り替え、怖さと危険を感じながらも、一步一步慎





サクランボの実を探すツキノワグマ(戸隠森林植物園内)

重に近づきながら数回シャッターを切りました。ファインダー越しに見ると、そのツキノワグマは艶のない毛並みの黒色で、瞳は結構薄い茶色。熊は何事もなかったかのように右手の林縁の中に去っていきました。

インフォメーション・センターでは、この時期(5~7月初旬)、熊が朝と夕方に出没するとの注意書きを配布して

いましたが、開館(9時)前の7時頃に入園し、そうとは知らずに遭遇したハプニングでした。

一日の始まりが突然のベアーウォッチとなり、バードウォッチングの萎<sup>な</sup>える気持ちを取り直し、右手に双眼鏡、左肩に望遠カメラを担ぎ、耳を澄ませて鳥たちの囀<sup>さえずり</sup>りを求めて歩きだしました。「カケス」のギアヤー、「ホトギス」のトッキョキョキョ、「キビタキ」のピーピーピリピリ、「コマドリ」のピイツ等々の声がしきりに聞こえるものの、双眼鏡ではとらえられず残念！飛び去る姿を目で追うだけで、カメラを構えシャッターを切るには至りません。今回はアカハラをとらえた数カットだけの探鳥に終わりました。



林間の暗部の草地で飛び跳ね、遊歩道の防御柵に止まるアカハラ

前回の「鳥見の記」で綴ったように、“夏鳥の写真にチャレンジ”と頑張りましたが、残念ながらそれは叶わなかった戸隠キャンプでした。それでも深い緑に覆われた森林の探索路を、小鳥を探し、山野草を鑑賞しながら、途中の東屋で休息を取りつつ早朝から昼時まで歩き廻ることができ、午後には戸隠古道を歩く「奥社詣」<sup>おくしゃもうで</sup>にチャレンジして充実のひと時を楽しみました。





茅葺屋根の苔の緑が陽に輝く戸隠神社・奥社の山門「ずいじんもん随神門」

山門をくぐると江戸時代の慶長年間に左右に植樹したといわれる約 200 本のクマスギの並木道が 500 メートル程続き、奥社までの参道周囲は原始林的な森林が残り、野鳥の宝庫といわれています。



杉並木



木立の隙間から望む戸隠山



小石を積んだ小さな祠



最後の最後に、鳴き声頼りに薄暗い林の枝に止まるキビタキを見つけ、大鳥居の参道では餌をくわえたキセキレイが尾羽を振り振り駆けていく姿を見ました。



キビタキ



キセキレイ

## 多くの鳥を観察して満足たつのくちしんすいの辰ノ口親水公園でのキャンプ

みずき野周辺でたんぼの稲刈が間もなく刈り終わる頃、寝袋を積み込んで常陸大宮市の久慈川沿いにある辰ノ口親水公園たつのくちしんすいに1泊キャンプにでかけました。ハクチョウや渡りカモ類の係留地ことくぬまで知られる那珂市の古徳沼はハクチョウやカモを見るには少々早過ぎるので、久慈川の河川を選びました。



久慈川の辰ノ口堰(常陸大宮市)



久しぶりに同じ場所にとどまり、川面に食餌に飛んでくる鳥たちをのんびりと観察でき、さらに肉眼・双眼鏡では捕らえられなかったものの、カツコウ・ウグイス・ホトギス・コゲラ・モズ・ハクセキレイやカラス等々を啼き声で確認できた充実の一日になりました。



清流の上で鳴きながら旋回するトビ



小魚(落ち鮎?)を狙うアオサギ



昆虫を探すカワラヒワ



餌を探すハマシギ



餌を飲み込んで飛翔するカワウ





餌場を争う鶴の舞いならぬサギ(ダイサギ)の舞い



老化防止・健康の目的でカメラ片手に始めたみずき野周辺の散歩が、野鳥を求めての郊外への散策になり、今後は気の「赴くままに」綴る「鳥見の記」になっていきそうです。

3丁目のブラリーマン・サトー